

2006年(平成18年)3月期
中間決算説明会

知恵をビジネスにする技術・情報企業



長瀬産業株式会社
2005年11月18日

◆ 目 次 ◆

- * 当中間期決算概況および通期業績見通し
- * 「WIT21」の回顧と次期中期経営計画「WIT2008」へ向けて
- * コーポレートガバナンス
- * トピックス　～当社のアセアンにおける事業展開～

**当中間期の決算概況
2005年9月期**

中間決算の概況(連結)

(単位:億円)
(億円未満切捨て表示)

■ 2006年3月中間期 決算概要

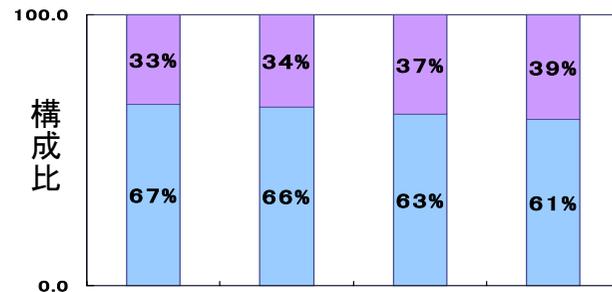
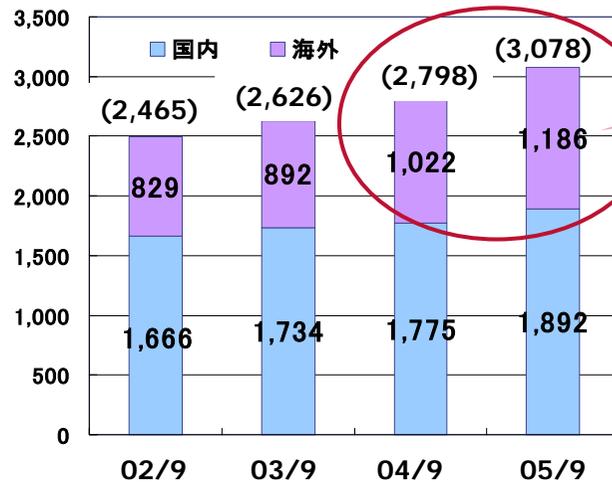
増収・増益・・・全項目で対前年同期比プラス・当初見通しも上回る

	05/9	04/9	増減	前年同期比	(参考) 当初見通し
売上高	3,078	2,798	+280	110%	3,000
売上総利益	327	303	+24	108%	325
営業利益	88	64	+23	136%	81
経常利益	99	76	+23	131%	88
中間純利益	75	46	+28	161%	56
1株当中間純利益	59円08銭	36円84銭	+22円24銭	160%	—

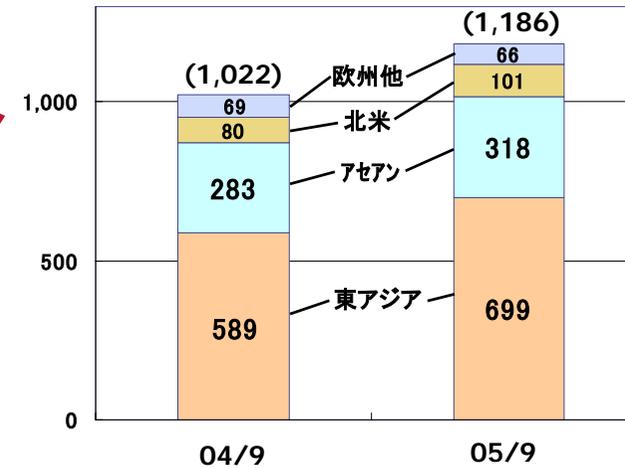
地域別売上高

(単位:億円)

売上 3,078億円 前年比 280億円増加



海外売上の内訳

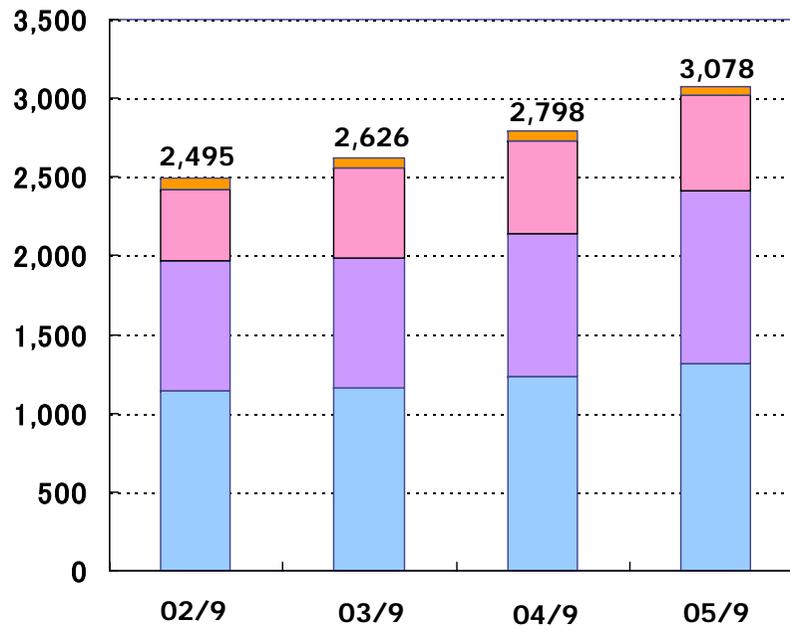


— 海外売上比率高まる —

- ・ 海外現地法人の業績好調
- ・ 合成樹脂関連がアジア、特に中国・香港・台湾向け(Gチャイナ)を中心に増加
- ・ 自動車関連の北米向けも復調

セグメント別売上高

(単位:億円)



	2002年9月	2003年9月	2004年9月	2005年9月
■ 化粧品	1,144	1,159	1,233	1,316
■ 合成樹脂	826	824	906	1,094
■ 電子	454	578	593	609
■ ヘルスケア他	70	62	64	59

セグメント別売上概況 (前年同期比較)

化粧品 + 82億円 (107%)

- 塗料原料・ウレタン等自動車関連増収
- インク・トナー原料やデジタル技術関連が好調

合成樹脂 + 187億円 (121%)

- Gチャイナ向けメディア媒体・事務機器用途好調
- 自動車関連は国内・海外ともに好調

電子 + 15億円 (103%)

- 液晶関連素材は国内を中心に増収
- 精密研磨剤も好調
- 液晶モジュール関連は減収

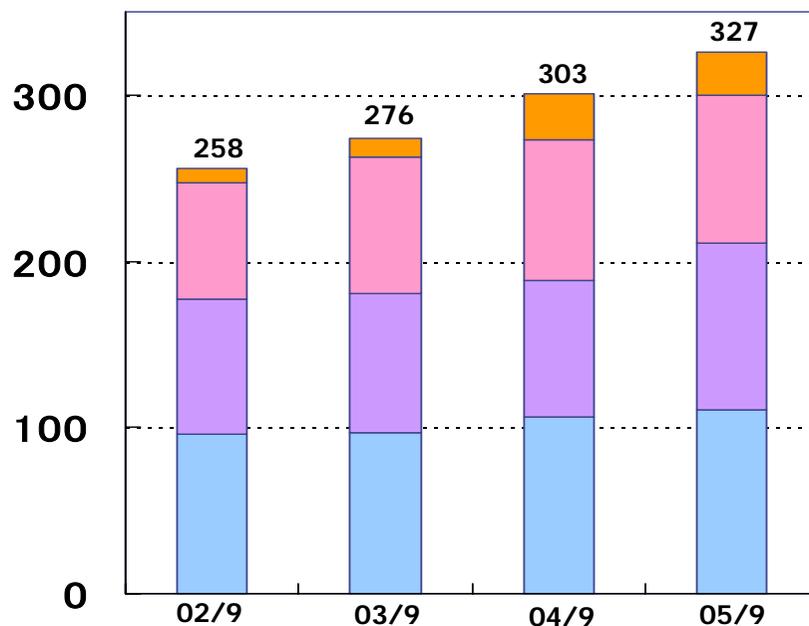
ヘルスケア・他 ▲5億円 (92%)

- 化粧品・健康食品は前年同期並み
- 医療用機器・試薬関連は減収

セグメント別売上総利益

(単位:億円)

売上総利益 327億円 前年同期比 24億円増加



合成樹脂を中心とした売上げの増加によるもの

セグメント別売上利益概況 (前年同期比較)

化粧品 + 5億円 (105%)

合成樹脂 + 17億円 (121%)

電子 + 3億円 (104%)

ヘルスケア・他 ▲2億円 (91%)

	2002年9月	2003年9月	2004年9月	2005年9月
■ 化粧品	96	97	106	111
■ 合成樹脂	81	84	82	100
■ 電子	70	82	85	89
■ ヘルスケア他	9	11	28	26

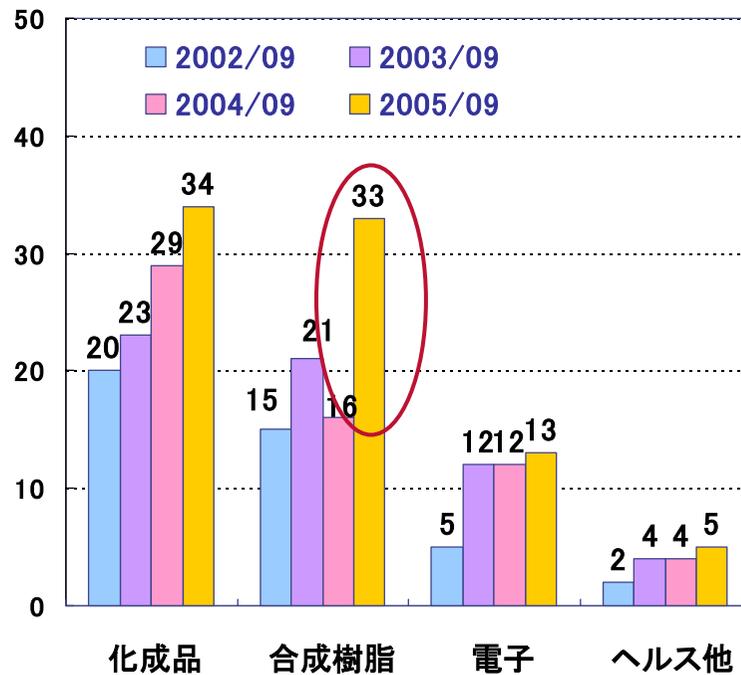
営業利益

(単位: 億円)

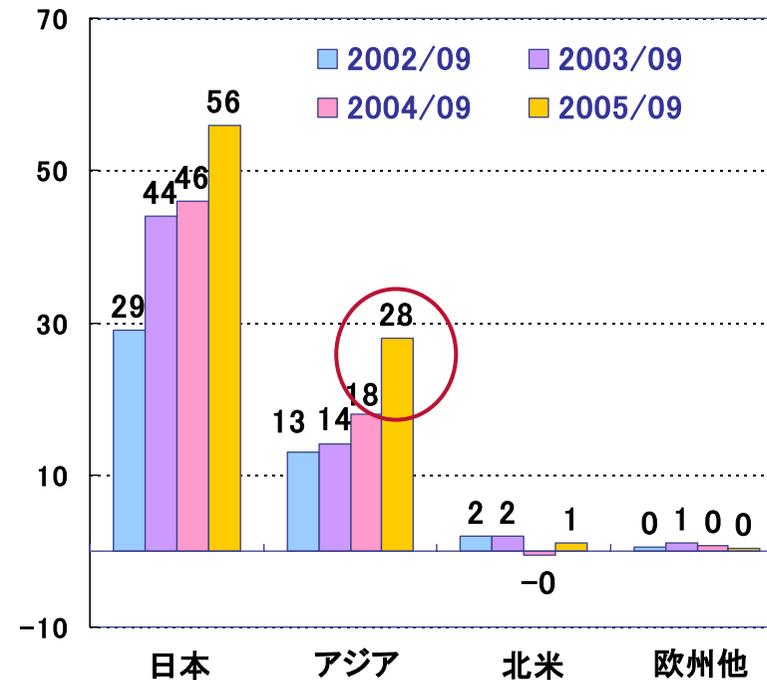
88億円 前年同期比136% 23億円増加

- 化成品は増収の影響もあり堅調に推移
- 合成樹脂は単体での増益に加え、アジア現法の増益

<事業セグメント別営業利益>



<所在地セグメント別営業利益>



営業外損益・特別損益

(単位:億円)

<営業外損益>

	05/9	04/9	増減	前年同期比
営業外損益	11	11	0	102%
金融収支	5	4	0	111%
その他	6	6	▲0	96%

<特別損益>

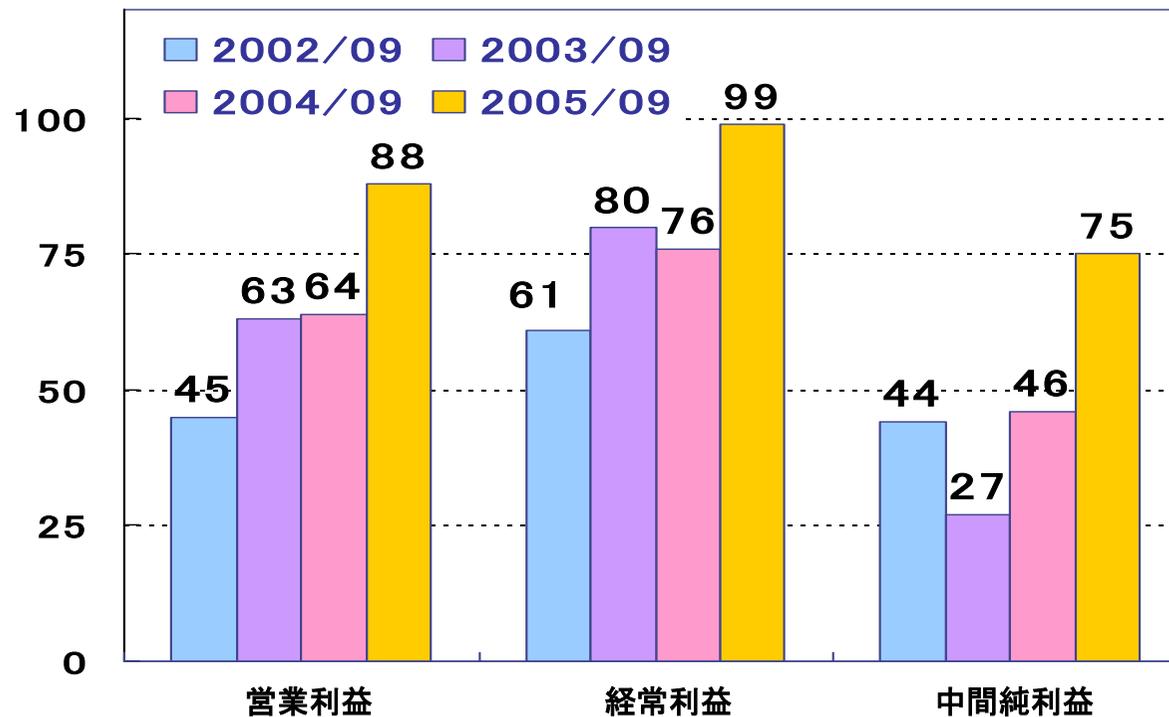
	05/9	04/9	増減
特別利益	21	8	13
固定資産売却益	10	0	10
投資有価証券処分益	10	7	2
その他	1	—	1
特別損失	2	7	▲5
固定資産廃棄損	1	0	0
その他	1	7	▲6

経常利益・中間純利益

(単位:億円)

経常利益：99億円 前年同期比131% 23億円増加

中間純利益：75億円 前年同期比161% 28億円増加



主な貸借対照表の増減

①増収に伴う売掛債権増加 ②投資有価証券の時価上昇

(単位: 億円)

《資産》	05/9	05/3	増減	《負債及び資本》	05/9	05/3	増減
現金及び預金	230	178	+51	支払手形及び買掛金	1,093	1,106	▲12
受取手形及び売掛金	1,787	1,733	+53	短期借入金	127	105	+21
棚卸資産	359	363	▲3	その他流動負債	192	200	+8
その他流動資産	67	71	▲4	長期借入金	61	34	+26
有形固定資産	304	296	+8	(有利子負債)	(188)	(140)	+48
投資有価証券	764	658	+105	退職給付引当金	67	74	▲6
その他固定資産	48	50	▲2	その他固定負債	160	112	+48
				少数株主持分	51	48	+3
				株主資本	1,807	1,670	+136
				(うち自己株式)	(▲56)	(▲59)	(▲2)
				(株主資本比率)	(50.7%)	(49.8%)	
資産合計	3,562	3,352	+209	負債・少数株主持分 資本合計	3,562	3,352	+209

キャッシュフローの状況

(単位:億円)

・税前提利益増加 ・運転資金の増加

	05/9	備考
営業活動による キャッシュ・フロー	▲3	税前提利益 119億円 運転資金 ▲61億円 法人税等の支払額 ▲39億円
投資活動による キャッシュ・フロー	8	固定資産取得 ▲17億円 固定資産売却 11億円 有価証券売却/取得 17億円
財務活動による キャッシュ・フロー	32	短期借入金 17億円 長期借入金 26億円 配当金の支払 ▲12億円
現金及び 現金同等物の期末残高	224	前期末比52億円の増加

主な連結子会社の業績

(単位:百万円)

	社名	売上高	前年 同期比	営業利益	前年 同期比	中間純利益	前年 同期比
単体	長瀬産業	227,306	102%	3,354	119%	5,431	151%
製造会社	ナガセケムテックス	10,723	101%	871	103%	1,138	285%
	東拓工業	3,641	105%	210	112%	540	—
販売会社	ナガセプラスチック	5,595	97%	31	84%	18	95%
	報映産業	5,970	88%	70	74%	84	177%
	長瀬カラーケミカル	6,816	98%	43	44%	17	31%
海外	ナガセ香港	20,006	138%	595	130%	485	128%
	ナガセシンガポール	13,963	96%	382	168%	335	171%
	ナガセタイランド	9,503	118%	378	104%	272	92%

通期の業績見通し
2006年3月期

2006年3月期(通期)業績見通し

(単位: 億円)

	2006年3月期 (中間期時点予想)	2006年3月期 (当初予想)	2005年3月期 (実績)	前年比 (%)
売上高	6,250	6,000	5,756	109%
売上総利益	663	650	619	107%
営業利益	174	161	132	131%
経常利益	185	174	151	122%
当期純利益	123	108	103	118%

セグメント別売上高の通期見通し

(単位: 億円)

	2006年3月期 (中間期時点予想)	2006年3月期 (当初予想)	2005年3月期 (実績)	前年比
化成品	2,640	2,600	2,517	105%
合成樹脂	2,220	1,950	1,884	118%
電子	1,280	1,320	1,225	104%
ヘルスケア・他	110	130	128	86%
合計	6,250	6,000	5,756	109%

「WIT21」の回顧と
次期中期経営計画「WIT2008」へ向けて

W ---- *Wisdom*

I ---- *Intelligence*

T ---- *Technology*

「WIT21」の基本戦略と重点分野

「WIT21」 策定の背景

単純仲介型、総代理店権ビジネスのダウントレンド

新たな高付加価値ビジネスを、自ら創造する必要性

「WIT21」 基本戦略

顧客指向の徹底による差別化の推進

マーケットリーダー事業の育成強化

グループ機能と独自性を生かしたビジネスの創造

「WIT21」 重点戦略分野

エレクトロニクス

ライフサイエンス

自動車関連

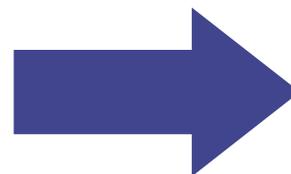
海外事業

「WIT21」 数値目標は前倒しで達成

当初目標値の達成

当初目標(2006年3月期)

- ・ 連結売上高 5,500 億円
- ・ 連結営業利益 110 億円



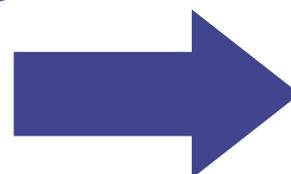
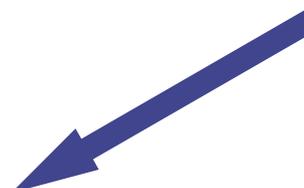
2005年3月期実績で前倒し達成

- ・ 連結売上高 5,756 億円
- ・ 連結営業利益 132 億円

最終年度目標値の上方修正

修正目標(2006年3月期)

- ・ 連結売上高 6,000 億円
- ・ 連結営業利益 161 億円



現在の見通し(2006年3月期)

- ・ 連結売上高 6,250 億円
- ・ 連結営業利益 174 億円



次期中期経営計画

「WIT2008」へ

(数値目標及び詳細は現在策定中)

「WIT21」重点戦略分野における成果

エレクトロニクス

- ・液晶関連分野拡大(光学フィルム、モジュール、部材加工)
- ・ナガセケムテックス等の製造機能を海外展開
- ・DVDプレーヤー販売等の川下展開

ライフサイエンス

- ・製造拠点統合(ナガセケムテックス・福知山への集約)
- ・非天然アミノ酸製造技術、ローズマリーエキス開発スタート

自動車関連

- ・販売拠点拡大(広州、天津、武漢 等)
- ・合併製造会社群拡大(設計、金型、精密金属プレス)
- ・中国、タイ、北米での売上増加

海外事業

- ・海外販売比率
33%(03年3月期)→39%(05年9月期)
- ・グレーターチャイナ、アセアン担当CEO設置(専任、現地常駐)

次期中期経営計画「WIT2008」の位置づけ

変革

推進

拡大・強化

WIT2000

WIT21

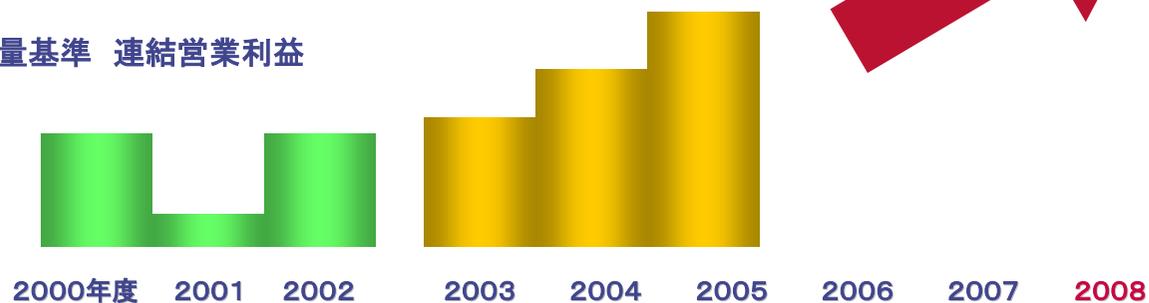
WIT2008

- 経営基盤変革
- グループ経営開始

- 事業方向性の明確化
- 事業基盤の強化
- 経営基盤の強化

- 体質強化
- ナガセらしさの継承
- 事業ポートフォリオ戦略の深化

定量基準 連結営業利益



次期中期経営計画「WIT2008」基本戦略

持続的成長への体質強化

重点分野への積極投資

事業基盤の拡大

高収益への構造転換

事業ポートフォリオ戦略の深化

健全な財務体質の維持

連結経営体制の整備

リスクマネジメントの徹底

内部体制の強化

現場主義

人材の(質・量)充実

技術・情報力の強化

ナガセらしさの継承

コーポレートガバナンス

株主・投資家への情報開示、透明な経営

監査役の機能強化、経営へのモニタリング

投資案件に対するリスクマネジメントの徹底

執行役員制度の定着、社外取締役の招聘



常に長期的・客観的な視点から企業経営を考える

取締役の役割を明確化し、企業経営を活性化する

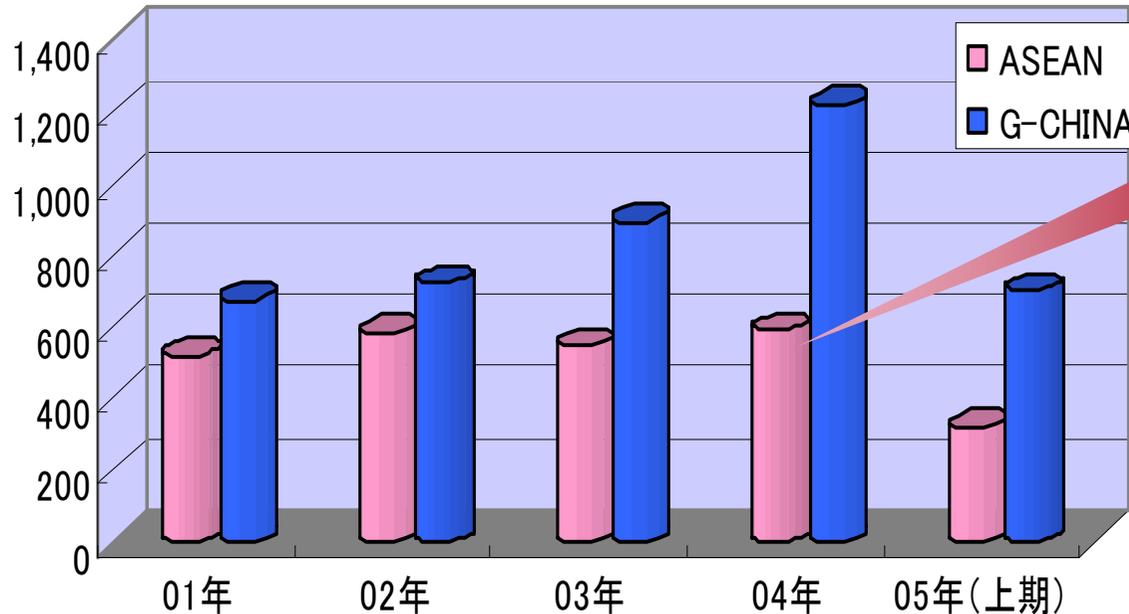
トピックス ～当社のアセアンにおける事業展開～

アセアン地区担当

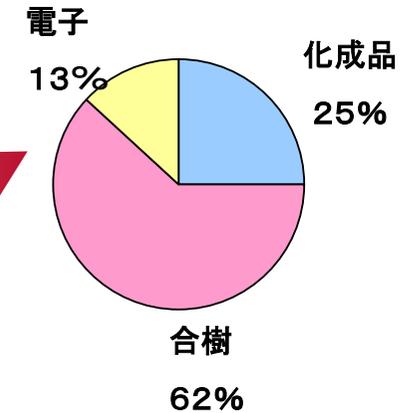
執行役員 菅 正道

当社のアジア地区販売状況

(単位:億円)



セグメント別売上高



単位:億円	01年	02年	03年	04年	05年(上期)	中期目標	06年
ASEAN	519	582	546	590	318	1,000	
G-CHINA	674	723	895	1,220	700	1,500	
計	1,193	1,305	1,441	1,810	1,018	2,500	

(為替レート1\$) 122.2 124.8 115.7 108.1 106.8

ASEAN : シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、フィリピン

G-CHINA : 中国(含む香港)、台湾

化成品関連事業

商材の流れ

現地、外資系化学品メーカー

日系化学品メーカー

当社の販売拠点

樹脂、塗料・インキ、染色加工、医薬、精密機器メーカー
地域代理店 等（現地・日系・外資系を問わず）

Chang Fong Overseas Enterprises

（化学品 小分け・販売）

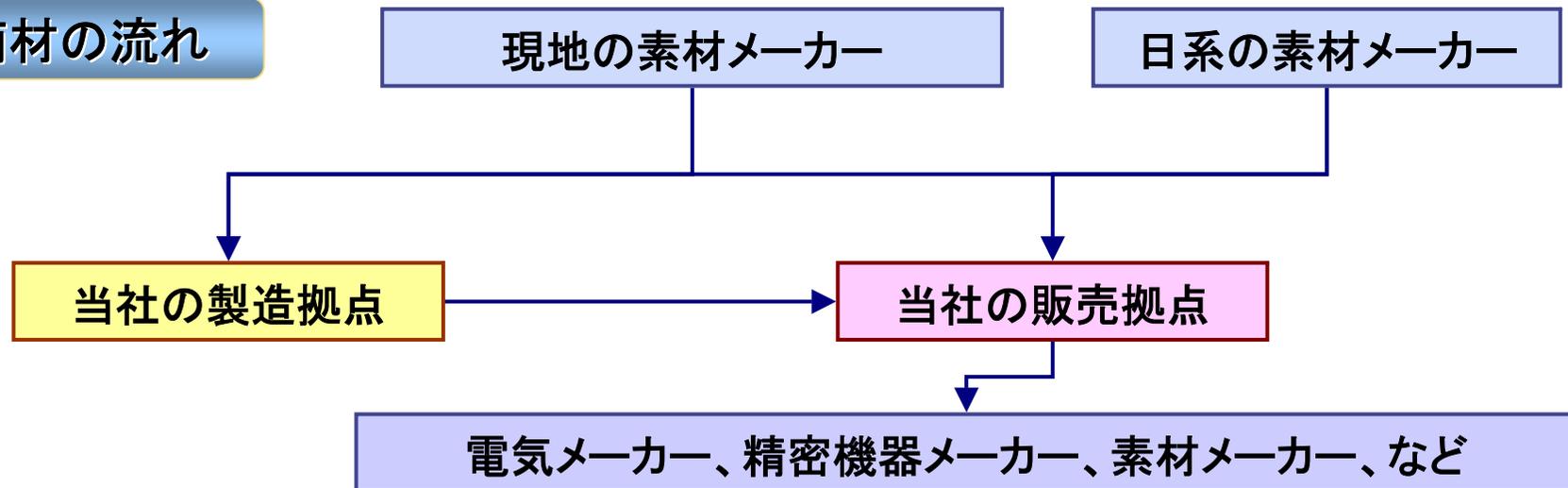


主な商材

- ◆ 各種添加剤・溶剤
- ◆ 樹脂原料（ウレタン、アクリル他）
- ◆ 染料・顔料
- ◆ 医薬原料
- ◆ その他

エレクトロニクス関連事業

商材の流れ



主な商材

- ・液晶用部材（光学フィルム）
- ・液晶用溶剤
- ・HDD 基板
- ・半導体封止材、半導体封止材用原料
- ・包装資材（クリーンバック、アルミバック）

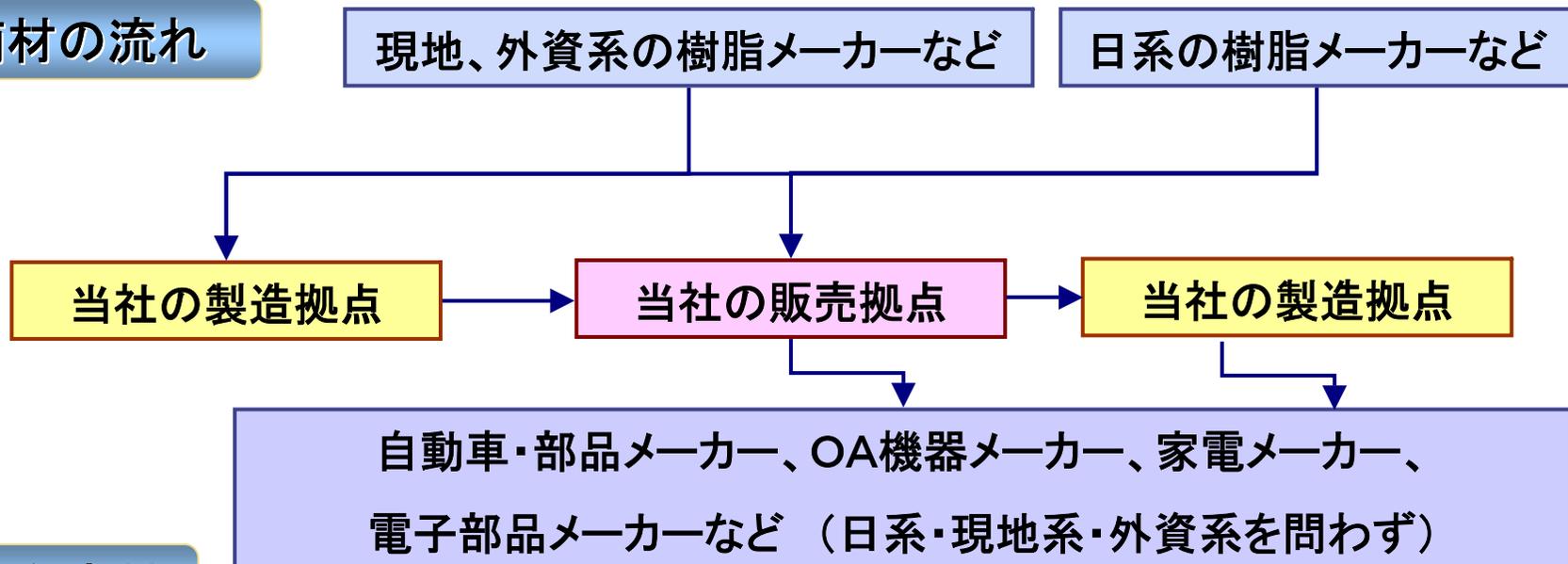
Nagase FineChem Singapore

（液晶用薬液製造、回収、リサイクル）



合成樹脂関連事業

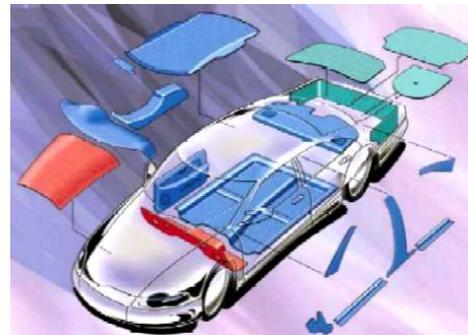
商材の流れ



主な商材

- ◆合成樹脂（PP、PS、PC、ABS、ナイロン他）
- ◆包装材料（フィルム、シート、トレイ他）
- ◆金型
- ◆自動車部品
- ◆機械設備

自動車樹脂部品（内・外装）



プリンター樹脂部品



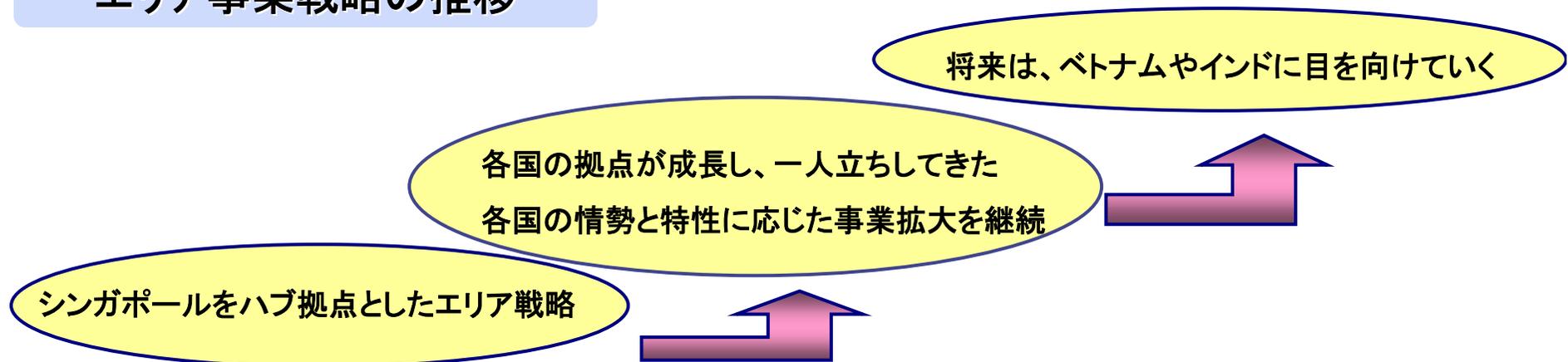
当社のアセアンビジネスの概要

形態別の取引額

	仕入	販売
現地内での取引	62%	88%
日本との取引	34%	3%
第三国との取引他	4%	9%
合計	100%	100%

現地内での取引	仕入	販売
日系メーカー	48%	42%
欧米メーカー	47%	10%
ローカル(ASEAN)	5%	48%
合計	100%	100%

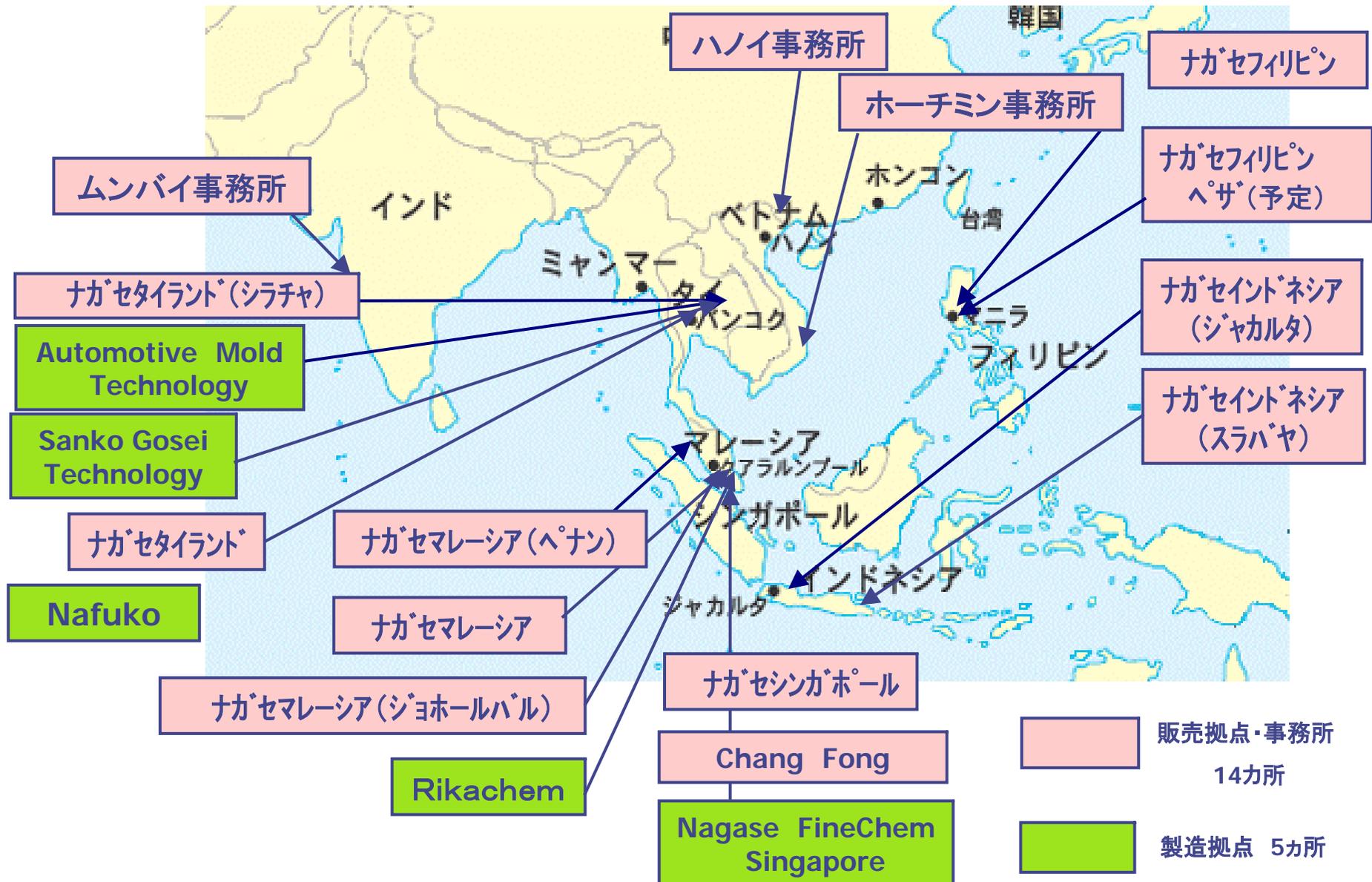
エリア事業戦略の推移



当社のアセアン事業展開推移

	～1980年代	1990年代	2000年～2004年	2005年
シンガポール	<p>ナガセシンガポール 1975年設立</p> <p>Chang Fong 1980年設立</p>		<p>Nagase FineChem 2001年設立</p>	
マレーシア	<p>ナガセマレーシア 1982年設立</p>	<p>Rikachem 1996年設立</p>		
タイ	<p>ナガセタイランド 1989年設立</p>	<p>Nafuko 1996年設立</p>	<p>Sanko Gosei Technology 1999年出資</p> <p>Automotive Mold Technology 2000年設立</p>	
フィリピン		<p>ナガセフィリピン 1997年設立</p>		<p>ナガセフィリピン ペサ (予定)</p>
インドネシア		<p>ナガセインドネシア 1998年設立</p>		
ベトナム		<p>ホーチミン事務所 1996年設立</p>	<p>ハノイ事務所 2002年設立</p>	
インド	<p>ムンバイ事務所 1964年設立</p>			

アセアン地域における拠点網



アセアンビジネスの強みと課題

当社が持つ 特徴と強み

- ・グループ力を背景に、現地でビジネスを完結する力
- ・ダイレクトに顧客ニーズを吸い上げ、事業を創造する力
- ・製造機能を有する強み
- ・化学(ケミカル)を通じて培った技術とノウハウ
- ・過去から蓄積してきた商圈、取引先との深いつながり
- ・債権回収・在庫為替リスクに対する長年のノウハウの蓄積

課 題

- ・アメリカ及び中国経済の影響を受けやすい経済構造
- ・韓国など競合国の技術、ブランド力の向上への対応
- ・新興市場(ベトナム・インド)への対応

今後のアセアンビジネスの戦略

環境

- ・チャイナプラス1の投資姿勢が継続
- ・引続き先進国に比べ高成長が見込まれる
- ・ベトナム、インドなど今後注力したい魅力的な市場

当社の戦略

- ・Local to Local のビジネス拡大に沿って、販売拠点(ベトナム・インド)を整備・拡充
- ・当社の強みを活かしたニッチな事業分野の開拓
- ・製造拠点の拡大
- ・リスクマネジメントの徹底

知恵をビジネスにする技術・情報企業



長瀬産業株式会社

当プレゼンテーション資料には、2005年11月18日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。